

開催地名：石川県穴水町	
開催日時	令和元年 11 月 24 日（日） 13：00 ～ 14：00
開催場所	穴水町役場 3 階大ホール
語り部	山田 修生 （宮城県仙台市）
参加者	穴水町民 約 50 名
開催経緯	<p>当町は、人口 8,000 人弱と人口が少なく、少子高齢化が急速に進んでいることから、これから先、一人ひとりの防災意識の向上が重要な課題であると考えている。そこで、今年の 3 月に当町の防災士で構成した、穴水町防災士会を立ち上げたところである。小さな街だからこそできる、顔が見える防災のネットワークを作り、双方の防災知識の情報交換や、万が一の災害に備えた取り組みに役立てていきたいとのことで会を立ち上げたが、まだまだ防災に関する知識が乏しいのが現状であるため、是非参考になるお話を伺いたい。</p>
内容	<p>（１）東日本大震災について</p> <p>東日本大震災の私自身の体験をお話したいと思う。私は地震発生時に自宅にいた。突然、地下からすごい勢いで突き上げる感じの揺れを感じた。体が床からボンと跳ね上がるような感じがした。それから縦揺れ、横揺れ、ななめ揺れと、今まで体験したことのないくらい長い時間揺れが続いた。このまま死んでしまうのではないかという恐怖感の中、家族の安否を大声で確認するのが精一杯だった。</p> <p>揺れがおさまってから、津波に備えて住んでいるマンションの住民を避難所へ誘導した。これまで実施してきた避難訓練は町内会の有志が集まったものだったが、町内会ごとの自主防災組織は全く機能できずに、家族、あるいは近所同士といった小単位での避難を余儀なくされたのが実状である。避難訓練は大体において、土曜日や日曜日など仕事をしている人の休日開催するのが一般的であるが、今回の大震災のように平日の日中に発生した場合は、自宅には主婦や高齢者しかいない。主婦を中心とする女性中心の防災訓練や、要援護者対応について、皆様の地域においても是非ご検討をお願いしたい。</p> <p>（２）震災から学んだこと</p> <p>次に避難する際に役立つものについてだが、まずは懐中電灯である。できれば大きいものが望ましい。それと携帯電話、携帯ラジオ、常備薬等である。これらは是非ご準備願いたい。（携帯ラジオは避難所では唯一の情報源となりうるし、大きい目の懐中電灯は天井に向けると全体がぼんやりでも明るくなる）</p> <p>もう一つは、可能であればご自宅に、家族の皆さんが地震のときに逃げ込む部屋を用意しておいてほしい。その部屋には家財道具も何も一切置かないという</p>

ことが肝心である。もし地震が起きた場合、家族全員がその部屋に逃げ込んでほしい。何もないので、怪我をする心配もない。

避難所で困ったことは、寒さや空腹の問題（毛布や暖房設備、食料の備蓄）とあわせて、トイレの問題があげられる。単純に数が少ないということの他に、高齢者、体の不自由な方のトイレの問題がある。高齢者や体の不自由な方専用のトイレを設置することを是非ご検討していただきたいと思う。災害時にはインフラが麻痺し、ライフラインが壊滅的な損害を受け、電気・水道・ガス・交通・経済がストップしてしまう。そのときは自助だけが自分たちの助けとなる。訓練や心構え、知識、経験は決して自分を裏切らず、役に立ってくれるものである。防災訓練、避難訓練等、役に立たないと思わずに、いざとなったらこれは必ず役に立つと考えて参加してほしい。避けられない災害を共生することを意識して、備えは怠らずに生活していただきたいと思う。

### (3) まとめとして

身に付けた知識・経験の全ては決して裏切らないということを申し上げる。そういう意味で、防災訓練は絶対必要だし、ともかく色々な形で色々な状況を想定して訓練を積み重ねていただければと思う。



開催地より

住民の皆さんに防災の意識を持ってもらう意味で、このような体験談を聞くことは非常に大切なことであると感じた。防災訓練も平日の災害発生を想定した内容で実施したいと思う。